

私たちがめざすもの それは…  
ゆたかな縁 きれいな水 いきた大地  
NPO法人水環境研究所

# わきみづ通信

第2号

■活動リポート

- ・湧水定期調査（4～6月）
- ・湧水百選の活動始まる
- ・全国地下水サミット2005参加決定

■コラム ······ 白鳥 孝治

印旛沼の湧水 連載第1回 「谷津の湧水」

■湧水紀行 ··· 「木曽路」「秋田の湧水」

■図書紹介コーナー

■活動案内

■学会・シンポジウム案内



撮影 堀田和弘



## 活動レポート

### 湧水定期調査（4月～6月）

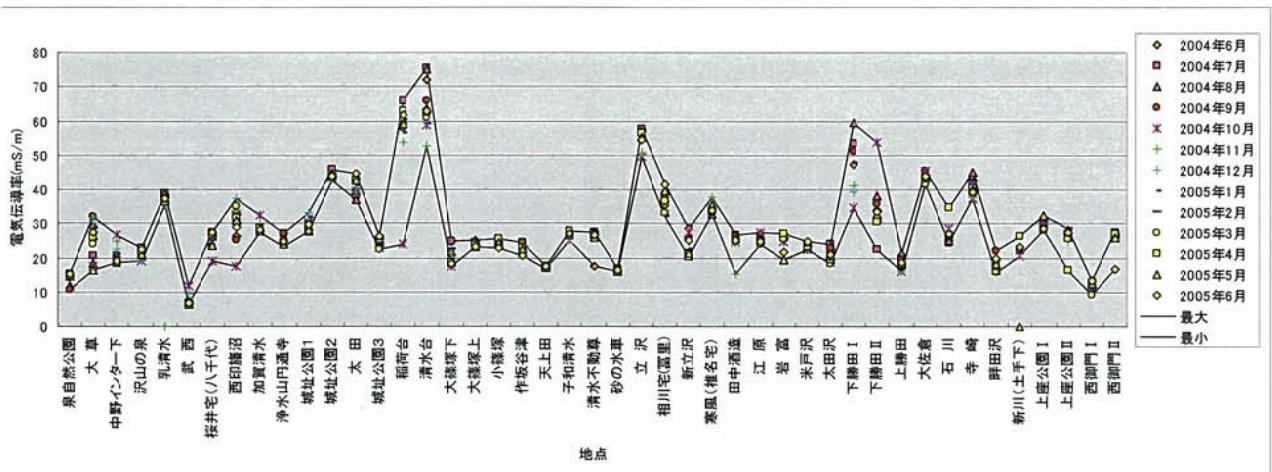
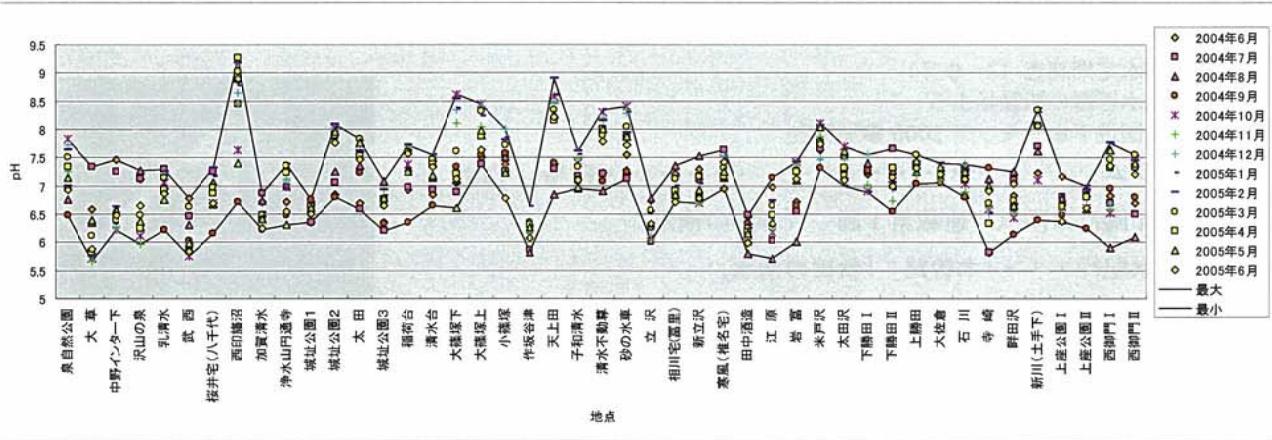
湧水の4月～6月までの定期調査が下記のとおり実施されました。調査に参加された皆様、お疲れ様でした。

4月28・29・30日：調査参加者は堀田理事、今橋理事、今井会員、東邦大学学生さん

5月27・29・31日：調査参加者は堀田理事、今橋理事、嶋田さん

6月24・25・26日：調査参加者は堀田理事、今橋理事、嶋田さん

昨年6月からの各地点でのpHと電気伝導率を下記のグラフに整理しました。pHでは西印旛沼が特に高くなっています。また電気伝導率は変動の幅が小さく各地点の特徴が良くわかります。特に低いのは武西、高いのは清水台、稻荷台、立沢、下勝田Ⅰとなっています。定期調査には時間の都合のつく方は積極的に参加しましょう。参加要領は活動案内をご覧ください。



「千葉県の湧水百選」の調査活動を開始します。前回おこなったアンケートではこの調査に多くの方が関心を寄せられました。調査は3カ年ほどを予定しています。まずは、資料集めからはじめたいと思いますので、皆様、情報をどしどしお寄せください。また、最終的にどんな本を作るか、どんなマップを作るか皆様のアイデアを待っています。

全国地下水サミットが9月30日～2日の3日間に渡ってかずさアカデミアパークを舞台に開催されます。当研究所も初日の分科会にコーディネーターとして参加することが決まりました。印旛沼から全国に水環境の声を届けましょう。<http://www.city.ichikawa.chiba.jp/env/event/sammit01.html>

# 中仙道 木曽路 湧水の旅



奈良井宿



木曾福島宿



水臼



須原宿

水船

撮影：堀田和弘

今年の5月木曽路を旅したときに撮影しました。

## 湧水紀行－2

今年のゴールデンウィークの終わり、人出が少なくなるころを狙って、新緑の秋田に行ってきました。東北道をひたすら北上し、六郷町、秋田市、湯沢市、子安峠、そして鳴子峡と、まだ緑淡い残雪残る東北の山々を廻っていました。冬季閉鎖がまだ解除されない山道に行く手を遮られ、残念ながら秘湯につかることはできませんでしたが、水量豊富な湧水に出会うことができました。今回はその中から、いくつか紹介します。(岩井久美子)



pH : 7.1  
EC : 16.1mS/m

### ニテコ清水：六郷湧水群 [日本名水百選]

町全体が湧水で町おこし！町内に湧水地が46箇所あるそうです。ぜひもう一度行きたいところです。



### 力水 [日本名水百選] 湯沢市 まろやかな味でした。



pH : 8.2  
EC : 18.6mS/m

力水の碑



[子安峠足湯] のpHとECを測ってみました。



pH : 8.2  
EC : 620mS/m



大噴泉

栗駒湧水：残雪の栗駒山麓の山中で見つけました。寒くて車の中で測定しました。



pH : 7.8  
EC : 4.7mS/m



地元の方が大量に水を汲んでました。

## 「印旛沼流域の湧水」

その I 谷津の湧水 白鳥孝治

印旛沼流域にはたくさんの湧水があります。平成9年から数年かけて、佐倉市内の湧水を探したことがあります。ボランティアの方々と一緒に、ヤブコキをして谷津の奥に分け入ると、あちこちから水が湧いていました。市内だけでも570か所の湧水を発見しました。印旛沼流域全体の谷津では、無数といってよいでしょう。

湧水の一つ一つは小さいけれど、これが集まって小川となり、大きな河川となって印旛沼に流れ込んでいます。湧水の総量は、印旛沼に流れ込む水量の、 $1/3$ とも $2/3$ とも言われています。まさに湧水は印旛沼の水源です。

八街市小谷流の谷津は、すでに休耕田になり、湿地の中を太古さながらに、水が蛇行して流れています。この谷津は、上流に1キロメートル位しかないのに、驚くほどの水量です。佐倉城址公園の裏門辺りにある湧水は、城の堀に下りる崖下に小さな洞穴があって、そこの粘土層から水が湧き出しています。佐倉市下勝田や富里市立沢などの谷津沿いの古村の裏山には、崖に差し込んだ竹筒から水が湧き出して、生活用水として今も使っています。谷津田のあちこちには、タナヤと呼んでいる池があって、春先の暖かい湧水にイネの種粒を浸して、芽出だしをしていました。

谷津田は、至るところに湧水があり、どんな日照りの年でも水が湧いているので、昔から「日照りに不作なし」といわれています。でも、冬に田の水を落とすと、田植えの水に困るので、一年中水田に水を溜めてあります。そのため、田の土は軟らかく、股までもぐる深田がありました。谷津は、周りの厚い緑とあふれるほどの水があり、トンボやホタルやカエルやメダカがたくさんいました。これが古村の風景を醸し出しています。

最近の谷津田は、排水と灌漑の施設が整備され、冬期の排水によって土が固められ、トラクターが使えるようになりました。田植えの水は、井戸や川の水をくみ上げて自由に使えるようになりました。耕作は、機械化によって大変楽になりました。しかも米はよく獲れるようになりました。

湧水は、田の水として使わなくてもよくなり、湧水の価値は、減ったように見えますが、印旛沼の水源としての価値は、ますます高まるばかりです。湧水の保全は、湧水を見ている人々が、その場所で保全することが最善です。単に昔の谷津田に戻すのではなく、現代の社会的、経済的状況に適合した形で、谷津田にも印旛沼にもよい湧水のあり方を考えなければなりません。みんなで考えましょう。



このコラムは4回にわたって連載します。お楽しみに！  
(これから予定)

その2 台地の湧水

その3 沼の湧水

その4 人なつこい湧水





## 図書紹介コーナー

### 【植物・動物・地学関係】

温泉学入門－温泉への誘い－：日本温泉科学会編 新コロナシリーズ コロナ社 1200円

広い意味で温泉も地下水の一種ですが、定義などについては温泉法という法律で決められています。昨年は天然温泉の表示や入浴剤の添加といった問題が話題になりましたが、温泉も水環境の一つと考えるといろいろ学ぶ点もあるようです。本書には「温泉をとりまく自然を見つめる」といった項目もあります。興味と関心のある方に一読をお勧めいたします。(今橋正征)

### 【小説】

死都日本：石黒耀著、2002年、講談社、 2415円

水環境にはちょっと関係ないのですが、最近 小説に距離をおいていた私が、ある人に地質屋ならぜひとも薦められて読んだのがこの本です。火山国日本の危機を描いたSF小説ですが、大変話題になったので既に読んだ方もおられるかも知れません。WEBサイトで検索してみてください。読まなくてもだいたい様子がわかります。読んでみようと言う方は付録の地図を無くすと先に進めませんので注意！(岩井久美子) 

## 活動案内

**1. 定期調査**：調査予定は次のとおりです。集合はホテルリッチタイム地下駐車場 9:00(厳守)

7月 29日(金)・30日(土)・31日(日)

8月 26日(金)・27日(土)・28日(日)

9月 23日(金)・24日(土)・25日(日)

10月 28日(金)・29日(土)・30日(日)

(参加申し込み・問い合わせ先) ご自分の車で参加される方は直接集合でも可能です。

[dzf01212@nifty.ne.jp](mailto:dzf01212@nifty.ne.jp) (堀田) [mt-imahashi@seaple.ne.jp](mailto:mt-imahashi@seaple.ne.jp) (今橋) 0706-635-9913(岩井)

※調査予定日が変更になることがあります。事前にご確認ください。

**2. 学習会**：第2回学習会 7月23日 15:00～

「印旛沼周辺の植物」

講師：今井会員

会場：ホテルリッチタイム 1F

**3. 巡検**：8月20～21日 (一泊二日、鳥海山山麓の湧水群をみる旅、企画担当：山濱理事)

参加申し込み受付中です。事務局まで、メール・電話・FAXでお願いします。参加費は各自負担となります。

**5. 総会**：10月2日。9月上旬頃ご案内いたします。

### [学会・シンポジウム案内]

第14回日本水環境学会市民セミナー都市生活と水－快適さの舞台裏－

主催 (社)日本水環境学会 期日 2005年8月26日(金) 参加費:無料(申し込み先着順250名)

場所 品川区立総合区民会館「きゅりあん」7階イベントホール(東京都品川区東大井5-18-1)

申し込み先: Fax. 03-3632-5352 E-mail: [tamura@jswe.or.jp](mailto:tamura@jswe.or.jp)

\*\*\*\*\*編集後記\*\*\*\*\*

梅雨明けの声とともに暑い～という悲鳴も聞こえてくる季節がやってきました。水が身近に感じる季節でもあります。今回のわきみず通信は湧水情報満載でお送りしました。いかがでしたでしょうか？コラム、湧水紀行も連載企画です。次号の湧水紀行は「鳥海山麓」の予定です。お楽しみに(K)。

表紙の写真: サシバ *butastur indicus* (ワシタカ科)

中型のタカで日本には夏鳥として渡来する。親鳥は好んでヘビを捕らえて巣に持ち帰って引きちぎって雛に与えるので。巣の周辺にはヘビの残骸が見られる。その他大型の昆虫類も食べる。この写真は6月26日の湧水定期調査(師戸川上流部の印西市草深の谷津)で撮影した。(堀田和弘)

### 「わきみず通信」第2号

発行 平成17年7月10日

編集・著作 特定非営利活動法人水環境研究所

〒285-0817 佐倉市大崎台1-6-1

URL: <http://www.wakimizu.org/>

お問い合わせ・各活動への参加申し込みは下記まで

e-mail: [office\\_iwe@wakimizu.org](mailto:office_iwe@wakimizu.org)

0706-635-9913[岩井]